



“見る・食べる・語らう” 見どころ満載、石川県

公益社団法人石川県不動産鑑定士協会 中村 聡

1.はじめに

本州日本海側のほぼ中央に位置する石川県。太平洋ベルト地帯と呼ばれる国土軸から外れており、これまであまり目立たない存在でしたが、北陸新幹線金沢開業によりメディアでも多く取り上げられその認知度が徐々に高まっています。しかし、県都であり文化・歴史遺産が多い金沢市に注目が集まり、石川県はその陰に隠れているのが今のところのようです。加賀百万石の文化や伝統を継承し大きく変わろうとしている金沢市に、認知度において押され気味な石川県。金沢市以外にも見どころはたくさんありますので、石川県のきらりと光るものをピックアップして紹介したいと思います。

2.石川県の概要

石川県は、日本海沿岸域にあってその中央部に位置し、能登半島とその基部である加賀平野により成り立っています。三方を海に囲まれており、東側、南側及び南東側で、それぞれ富山県、福井県及び岐阜県と接しています。面積は4,186.15 km²で、平成27年5月1日現在の人口・世帯数は1,152,771人・458,482世帯です。産業は、就業人口構成比（平成22年・民営事業所）が第1次産業3.2%、第2次産業27.3%、第3次産業69.5%で、製造品出荷額等割合（平成25年度）が機械66.0%、繊維8.0%、食料品6.7%、窯業・土石2.4%、木材・木製品0.9%、その他16.0%となっています。交通は、陸路



J R 金沢駅新幹線ホーム

では北陸新幹線で東京まで、JR北陸本線から東海道新幹線あるいはJR東海道本線等を経由して大阪、名古屋まで鉄道で結ばれており、高速道路は北陸自動車道から東名・名神高速道路等を経由して三大都市圏と結ばれています。空路は小松空港から羽田線、札幌線、福岡線等が、能登空港からは羽田線が就航しています。

3.北陸新幹線金沢駅開業

全国的にも話題に取り上げられ気になる方も多いと思いますので、開業直後の状況を簡単に記したいと思います。地元では100年に1度の好機と捉えられる北陸新幹線金沢駅開業、従来の特急列車利用に比べ列車の定員数や運行本数が増えたためか、金沢駅周辺には観光客で人が増えた、ホテルの部屋が足りないという事をよく聞きます。開業直後の新聞記事によると金沢



J R 金沢駅中 2 階待合室 (百工の間)

駅から観光地に向かうバス便の平均乗客数は前年の大型連休以上の水準、駅周辺店舗での土日のレンタカー利用は前年同期の2、3倍程度、駅周辺でのタクシー利用者数は平日が前年の2割増、土日は概ね前年の5割増とのことで、物珍しさ等のご祝儀的な賑わいもあると思います。が人は増えているようです。

4.とも旗祭り

基準地の点検で奥能登へ行った時、一風変わったお祭りを偶然に見かけました。港に多くの人が向かうのを追いかけていくと、大勢の人陰の向こうに白い大きな旗がいくつも見えます。それらが風になびいて横に水平に動いています。そしてそれらが沖の方に移動していきます。旗には厳めしい大きな漢字が書かれています。これらの現象がお祭りであると気づくまで



とも旗祭り



御座船

に暫くかかりましたが、とても摩訶不思議で荘厳な印象を受けたことを覚えています。その時の記憶が鮮明に残っていたので、これを紹介したいと思います。その名は「とも旗祭り」と言ひまして、石川県鳳珠郡能登町字小木付近の小木港、九十九湾でのお祭りです。『御船神社の春豊漁を願う祭りで、美濃紙約500枚を繋ぎ合わせた高さ約20mのあのぼりを立て、5色の吹流しを付けた9艘の船が笛鐘、太鼓に合わせて「ヨオーヨオー」とはやしなから、小木湾内を練り回ります。起源は、御大国主命が北陸路平定のため軍船を進めたおり、猿田比古命が水先案内となって能登半島の突端緑剛崎を回航しました。途中台風に襲われ大国主命は、ようやく九十九湾に避難したが、一同は神族を揚げて海上の安全を祈願しました。やがて風は止み、海は静まったという伝え』と言われていますが諸説あるようです。名立たるお祭りとは言えませんが、9艘の船が御座船に先導され隊列をなすその様子は勇猛かつ壮観で、多くの方が興味を持つお祭りだと思います。(とも旗祭りの内容、起源については石川県ホームページより抜粋)

5.重要伝統的建造物群保存地区

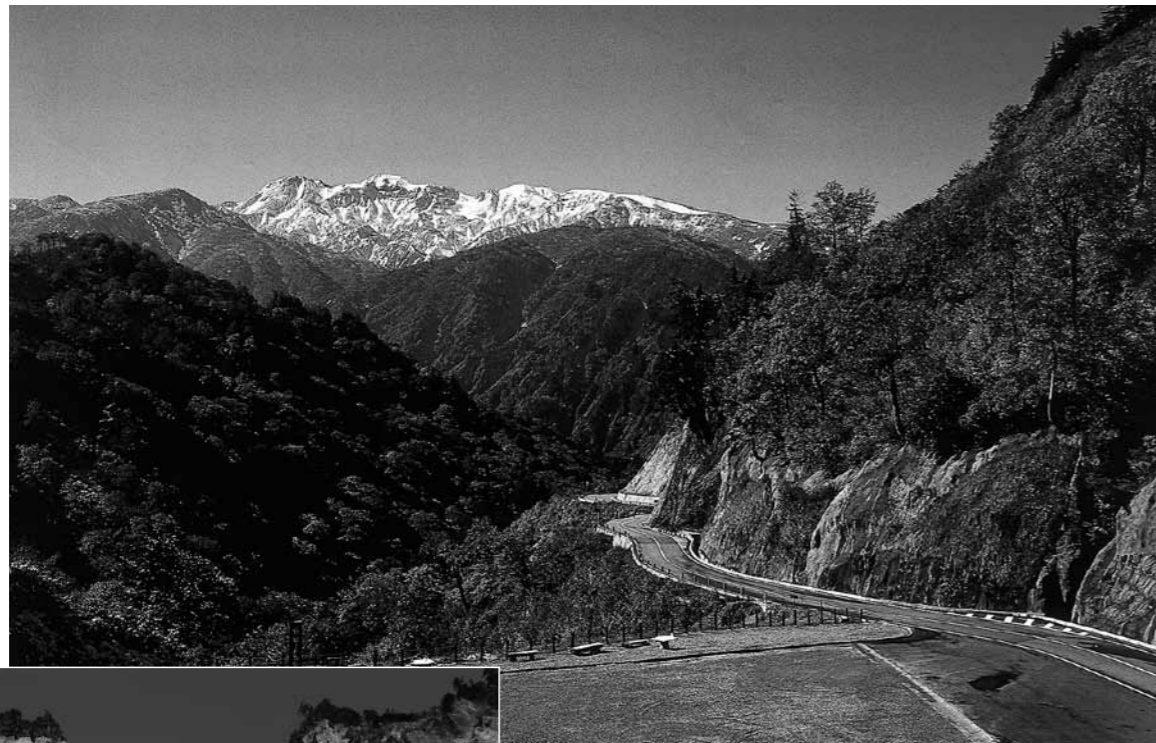
石川県には国選定の重要伝統的建造物群保存地区が8地区ありまして、その中の加賀市「加賀橋立」を取り上げたいと思います。この地区は加賀市が条例で加賀市加賀橋立伝統的建造物群保存地区として指定した地区を、同市の申出に基づき国が重要伝統的建造物群保存地区として選定した地域です。北前船の廻船業により発展し船主や船頭が多く居住していた海岸近くの地域で、もともとが農家集落としての性格が強い地域であったため、港町として発展した地域に多い廻船問屋の建物は少なく、あくまで農家型を発展させた豪華な建物が多く存します。そのため建物は道路から後退して建てられており、その間には塀、庭が設けられ樹木も多く落ち着いた佇まいを見せています。また、建造物群の特徴である赤瓦で葺かれた屋根、上部に窓を設けた縦板張りの塀、石垣等が町並みに程よい統一感を与えています。なお、木造建築物が多い地域なので耐震性や防火対策等について気になるところですが、これについては条例に基づく加賀橋立伝統的建造物群保存地区保存計画にて対策は講じられていますが、地元の方の防災意識・対策に頼るところが大きいようです。

重要伝統的建造物群保存地区
「加賀橋立」

6.能登井



人口減少が続く地方では、商店街は閉鎖した店舗が目立ち以前の賑わいを失っている地域も多いと思います。石川県では奥能登にその傾向が顕著で、県では地域振興策の一つとして「能登井」のPRにも力を入れています。能登井とは「全国地域おこしご当地井会議」に参加した能登固有の食材や器などを使った井のことで、同会議には平成26年6月現在、全国16地域における16井が参加しており、能登井は同会議の発足当時から輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の4市町が加盟地域として参加しています。能登井の特徴は豊富な海岸線を持つ能登半島でとれた海の幸、魚醤「いしり」で、お店によっては食器に「輪島塗」「合鹿椀」「珠洲焼」等を使用することもあります。見た目は海鮮丼と同じ井が多いですが、能登の食材で作られたこの井は食べてみる価値が大いにあります。



白山白川郷ホワイトロード



ふくべの大滝

7. 白山白川郷ホワイトロード

石川県と岐阜県の県境に位置する山間部を開発して整備されたこの道路は、正式名称を林道白山線といい、平成27年度からその愛称を「白山スーパー林道」から「白山白川郷ホワイトロード」に変更しました。未開発森林資源の開発を目的として整備された道路で、石川県白山市尾添地区から岐阜県大野郡白川村字鳩ヶ谷地区までの延長33.3kmを、幅員6.5m、全線2車線（片側1車線）の有料道路で結ばれております。急斜面の山肌に沿って整備されているため急カー

ブや急勾配な箇所が多く制限速度は時速20km～30kmとなっています。また、標高610m～1,450mに整備された道路のため眺望に優れるものの、その高さ故に怖さを感じることもあります。醍醐味は、何といても山々の大自然が織りなすその眺望です。夏には避暑を目的として訪れる方も多く、秋にはカエデの紅葉が見ごろとなります。道路区間内には「ふくべの大滝」、「しりたか滝」など主な滝が8つ存し、白山展望台では豊かなブナ林の向こうに雄大な白山を眺めることができます。なお、11月中旬から6月上旬まで閉鎖となります。

8. IR (アイアール) いしかわ鉄道株式会社

北陸新幹線金沢駅開業により、JR北陸本線の金沢駅～倶利伽羅駅間（営業区間17.8km）は西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）より経営分離され、その運営を第三セクター方式の鉄道事業者であるIRいしかわ鉄道株式会社が担う

こととなりました。しかし北陸地方はいわゆる車社会のため鉄道の利用者が少なく、北陸新幹線開業により並行在来線の特急利用者が新幹線利用に移ることが予測されることから、同鉄道の経営は危ぶまれており、収支予測自体も安定したものでないのが現状です。現在の対策としては、新会社の設立により初乗り区間が増加するため運賃値上げが必至でしたが、この運賃値上げ率を抑制しこれを県民にアピールすることにより利用者離れを防いでいます。また、JR西日本から取得する車両資産は新型あるいはそれと同程度の車両を低廉な価格で取得し、線路等の鉄道資産はJR西日本が修繕を行った後に取得したもので初期投資額を抑えています。また、職員はJR西日本からの派遣職員を多く採用して人件費の抑制を行い、安全対策も十分に行い経営の安定化を図っています。今後も、沿線人口の減少や消費税増税の実施が予測され厳しい経営環境が続くものと考えられますが、県民の鉄道による移動手段の確保のため是非とも頑張っていただきたいと思う次第です。

9. 石川県の地価動向

平成26年地価調査によると、石川県の用途別でみた平均変動率は住宅地が▲1.7%（前年▲2.6%）、商業地が▲1.9%（前年▲2.9%）、工業地が▲2.8%（前年▲3.2%）となっており、15年以上連続で地価変動率は下落傾向で推移してはいましたが、ここ最近は地価の持直し傾向が顕著になっております。これは量的・質的金融緩和を中心とするアベノミクス効果に加え



IRいしかわ鉄道株式会社

て、北陸新幹線金沢駅開業への期待が地価に影響を与えているものと考えられます。しかし、北陸新幹線開業による期待効果は金沢市や野々市市に限定されており、石川県全域にその効果は波及していません。また、人口減少が進む奥能登では地価下落率は縮小しているものの、縮小の度合いは小さなもので昨年、一昨年とほぼ同様の下落を継続しています。因みに、金沢市及び野々市市の全用途の平均変動率はそれぞれ0.0%、▲0.8%であるのに対し、輪島市の同変動率は▲4.7%、珠洲市は▲5.5%、穴水町は▲3.7%、能登町が▲4.9%となっており県下における二極化への動きが窺えます。

平成27年地価公示、都道府県別・用途別対前年平均変動率（国土交通省HP）によると、石川県の用途別でみた平均変動率は住宅地が▲1.3%（前年▲1.9%）、商業地が▲1.2%（前年▲2.8%）、工業地が▲1.9%（前年▲2.7%）となっており、地価の持直し傾向が進んでいることを確認出来ます。

※参考ホームページ：石川県 HP、能登町 HP、うるかむ奥能登 HP、白山白川郷ホワイトロード HP、IRいしかわ鉄道株式会社 HP、国土交通省 HP



自然も人も恐竜も 魅力の宝庫・福井県

公益社団法人福井県不動産鑑定士協会 山岸 範之

1 はじめに

住みやすく、平均寿命も高く、教育熱心で社長も多く、預貯金も多い堅実な県民性の福井県。一方、地味な県民性を反映し、地域ブランド調査では常に下位争いの福井県。

さて、今回はそんな福井県を徹底分析し、魅力をお伝えしたいと思います。

- ★住みよさランキング2014「東洋経済 都市データパック」
福井県坂井市 全国2位
福井県鯖江市 全国6位
福井県福井市 全国10位
福井県敦賀市 全国23位
- ★平均寿命 男性 80.47歳（全国3位）、女性86.94歳（全国7位）
「平成22年厚生労働省調査」
- ★三世代世帯割合 17.6%（全国2位）「平成22年 国勢調査報告」
- ★全国学力・学習状況調査2012「国立教育政策研究所」
国語 72.94点（平均） 全国2位
数学 70.75点（平均） 全国3位
理科 67.08点（平均） 全国2位
- ★社長輩出数 1,457人/人口10万人あたり（全国1位）
「平成25年 帝国データバンク」
- ★預貯金現在高 1,086万円 全国7位「平成21年総務省統計局」
- ★第9回地域ブランド調査2014 魅力度ランキング 全国45位



左/三国祭 下/三国神社の桜



2.福井県の概要

福井県は、本州日本海側のほぼ中央に位置し、東西約70km、南北約130kmに及び、総面積は約4,190km²で、延長約410kmの長い海岸線が走っており、県下のほぼ全部の海岸が若狭湾国定公園、越前・加賀国定公園の指定を受けている。福井県は、JR「北陸トンネル」が貫通する敦賀と今庄の間の山中峠、木ノ芽峠、栃ノ木峠を結ぶ約10kmにわたる山稜を境として、北東部を嶺北地域、南西部を嶺南地域に大別している。人口は約79万人、嶺北地域7市4町、嶺南地域2市4町で構成されています。県の花は水仙、寒中に咲くこの花の忍耐強さは県民性に通じます。県の鳥はつぐみ、厳しい冬を県民と共に過ごす冬鳥の代表です。県の木は松、清楚で、岩や砂地にもたくましく育つ生命力は県民性の象徴です。県の魚は越前がに、冬の味覚の王者です。福井県といえば、産業では国内シェア97%を誇る眼鏡フレーム、文化では三国、武生、小浜などの町並み、魅力は東尋坊など豊かな自然です。

3.福井県のトピックス

福井県における最近のトピックスは以下のとおりです。



平成21年に完成した北陸新幹線福井駅

①北陸新幹線

今年の3月14日に北陸新幹線金沢・富山～長野間が開業し話題となりましたが、福井県については金沢～敦賀間の開業時期を3年前倒しし、平成34年度末の完成・開業を目指すことを政府が決定。現在はさらに与党検討委員会において福井先行開業の可能性を探る検討が行われているところです。

②JR福井駅西口再開発

平成28年3月完成予定のJR福井駅西口再開発ビルは、高さ約90mの地上21階、地下2階建てとなり、商業、公共公益、住宅機能を備えます。西口再開発ビルに入る公共施設は、「にぎわい交流拠点」の形成を基本コンセプトとし、西口交通広場と一体となった屋根付き広場、自然史博物館分館（ドームシアター・展示スパー



工事中の福井駅西口再開発ビル

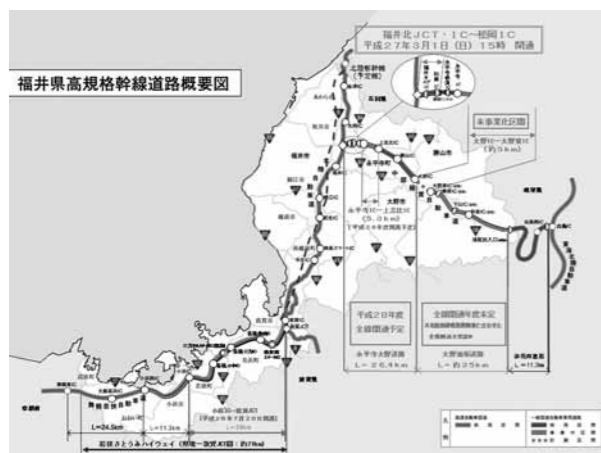
ス)、多目的ホール、観光関連施設等を予定しています。

③舞鶴若狭自動車道

平成26年7月に小浜ICから敦賀JCTまでの間(約39km)が開通し、舞鶴若狭自動車道は、吉川JCT(兵庫県三木市)から敦賀JCT(福井県敦賀市)までの延長約162kmが全線開通しました。これにより福井県嶺南地域の主要観光地では、前年同時期と比較し来場者が約2割増加しました。

④中部縦貫自動車道

平成27年3月に福井北JCT・IC～松岡ICが開通し、中部縦貫自動車道と北陸自動車道が接続しました。沿線市町ではコンビニの新規立地や観光客増大により地域経済に好影響を与えています。



(出典：福井県観光写真素材集HP)

4.福井県の文化・歴史等

現在の福井県は、明治14年(1881年)に若狭3郡と越前敦賀郡が滋賀県から、越前7郡が石川県から分離されて誕生しました。この地域の確定は、現行の47都道府県のうちで40番目であり、全国的にも遅いものでした。この背景には、木の芽峠(木嶺)を境とする「嶺北(主に越前)」「嶺南(主に若狭)」という地域的対立があり、嶺北は大陸文化の漂着地として「越前和紙」や「越前漆器」「越前打刃物」「越前焼」という独自の産業が発達し、北陸圏への帰属意識が強く、一方、嶺南は京都に近く日本海側で水揚げされた鯖や製塩された塩を京都に運ぶ要所として関西圏への帰属意識が強く、相互の文



上/越前漆器
左：浜焼き鯖



化や経済交流が希薄であったためといわれています。このため、話し言葉も嶺北では北陸方言に分類される「福井弁」、嶺南では近畿方言に分類される方言が話されるようになりました。この両国の対立は合併後も長く続き、当時の政府は福井県を難治県と考え、初代県令石黒務は「嶺北」「嶺南」の融和に腐心することになります。現在は、国鉄(現JR)の北陸トンネル開通や北陸自動車道の貫通によって「嶺北」「嶺南」の交流は深まりましたが、この地域的対立は近代福井県政史の底流の1つをなすものとなっています。

5. 福井県の観光

福井県の観光といえば、東尋坊、永平寺、越前海岸等が有名ですが、今注目を集める新しい観光スポットをご紹介します。

一乗谷朝倉氏遺跡は、福井市街の南東方約10kmの地点にあり、戦国時代、武家屋敷、寺院、職人商人等の町屋が計画的に整備された日本有数の城下町でありましたが、織田信長によって焼討ちにあい灰燼に帰しました。昭和42年から発掘が開始され、約400年の時を経てその姿を現しました。日本のポンペイとも称され、「一乗谷にて」白戸家の故郷の夏として某携帯電話会社の連続CM小説にも登場致しました。

福井県立恐竜博物館は、勝山市にあり、恐竜に関する国内最大級の博物館で、銀色に光るドームの内部の展示室には42体もの恐竜骨格や数々の標本が展示されています。

北陸新幹線が金沢まで開業し、首都圏の観光客を隣の福井へ呼び込もうと、JR福井駅前に県内で発掘された巨大な恐竜のモニュメントが登場しました。また、壁一面にも恐竜の絵が描かれ、構内のベンチには服を着た恐竜が座っており、福井駅がジュラシックパークになっています。



一乗谷朝倉氏遺跡



福井駅前恐竜モニュメント

6.福井県の食

『和食は福井にあり』(向笠千恵子著、平凡社新書)という著書の中でも紹介されているとおり、福井県には美味しい食べ物が沢山あります。日本海の冬の味覚の王者と言われるズワイガニをはじめ、日本海に面しているため海の幸は豊富です。また、先日「秘密のケンミンSHOW」でも紹介されたおろしそば等も美味です。全部はご紹介できないので、今回はその一部をご紹介します。ちなみに、食べ物とは違いますが、現在TVで放映中の「天皇の料理番」の主人公 秋山徳蔵は福井県出身です。

日本海の冬の味覚といえはかにが有名ですが、福井ではズワイガニの雄は越前がに、雌はセイコガにと一般に呼ばれています。雄の越前がにには高価なものと数万円にもなるので、滅多



越前かに

に食卓でお目にかかることはありません。地元の人にはむしろ、雌のセイコがにに親しみを感じている人が多いのではないのでしょうか。雄に比べ足が細いため食べにくいのが難点ですが、雄にはない赤子、濃厚なかに味噌、かに足とそのうまさは絶品です。かにを食べている間は会話が途切れ、静かになるというのも頷けます。

福井の蕎麦はだしにつけて食べるざるそばや盛りそばと違い、大根おろしをかけて食べるおろしそばが一般的です。大根の辛みと蕎麦の味が微妙に絡んで、ざるそばなどとは違った、独特な蕎麦の味わいが出ます。

福井は水とお米が美味しいため、至る所に酒蔵が見られます。量販店で買うのもいいですが、福井に来られたならば、是非一度酒蔵に足を伸ばし、杜氏さんとも会話をした上、お気に入りのお酒を購入されることをお勧めします。杜氏さんの顔がわかるお酒は、その味も変わります。お店によっては試飲させてくれるところもあります。

最後に、あまり知られていないのですが、福井はあぶらあげとコロケの消費量が日本一です。あぶらあげの専門店もあるくらいです。水ようかんというと夏をイメージされる方が多いと思いますが、水ようかんは福井では冬のお菓子です。冬になるとこたつで水ようかんを食べる姿が見られます。



おろしそば

なお、吉田類さんが好むようなお店や福井のB級グルメにつきましてもいろいろとご紹介したいのですが、別の機会に譲りたいと思います。吉田類さん及びB級グルメファンの方は悪しからずご容赦下さい。

7.福井県の商業施設

福井県は全国で唯一、イオングループの複合型商業施設がない県です。県内初のショッピングセンターとして、昭和52年にジャスコを中核店舗とした「ショッピングタウンピア」を開店しましたが、平成15年の閉店時に一悶着があり、それ以降はイオン、ジャスコ等の店舗は一つも存在しない状況が続いています。しかしながら、地元テレビ局ではイオングループのCMが多く流れており、「うちには無いぞ!」と、心の中でツッコんでしまう県民も多いのではないのでしょうか。

現在、県内で映画館を備えた商業施設は、フェアモール福井(福井市、中核店舗:アピタ)、アル・プラザ鯖江、アル・プラザ敦賀の3施設があり、その中でも大規模な専門店街を有するフェアモール福井が、県内最大の商業施設です。フェアモール福井周辺では、家電量販店、スポーツ用品店等の多くの店舗が立地しており、県内随一の大型店舗集積地域が形成され、数少ない出



フェアモール福井

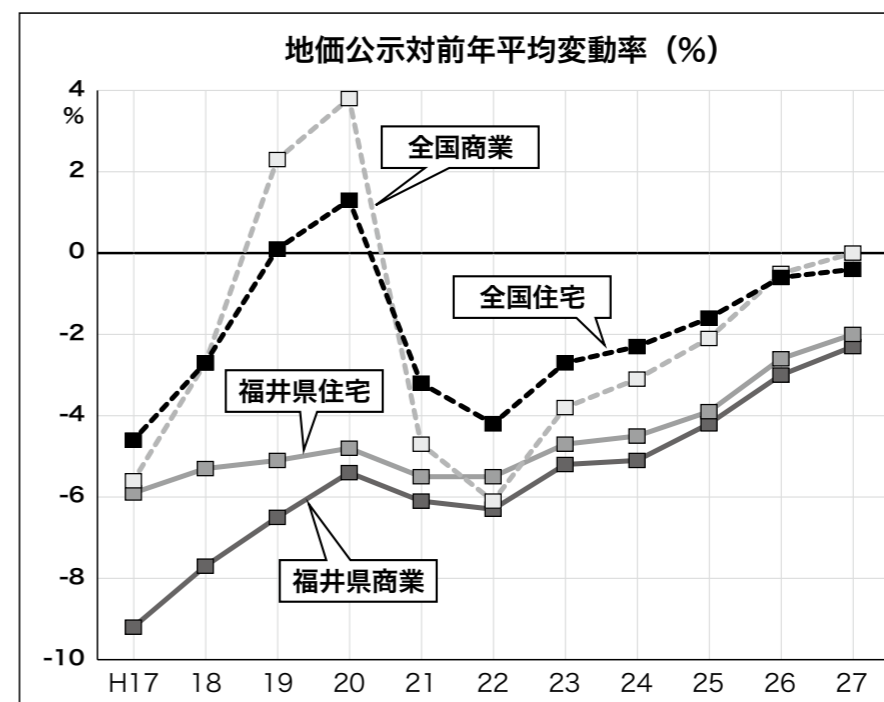
店意欲の旺盛な地域となっています。

8.福井県の地価動向

平成27年地価公示によると、福井県における公示地の対前年平均変動率は、全用途で▲2.1% (前年▲2.7%)、住宅地で▲2.0% (前年▲2.6%)、商業地で▲2.3% (前年▲3.0%)、工業地で▲1.5% (前年▲1.9%) となっており、商業地の最高価格地点は福井5-2 (福井市中央1丁目) で329,000円/㎡、住宅地の最高

価格地点は福井-18 (福井市宝永3丁目) で93,200円/㎡となっています。平均変動率は下落が続いていますが、ここ数年、総じて下落幅は圧縮傾向にあります。

リーマンショック後の数年は、地価公示、都道府県地価調査において全地点下落という状況が続いていましたが、最近では景気の回復等により、住宅地については県庁所在地である福井市内において、幹線道路背後の利便性の高い新興住宅地域を中心に一部で需要の高まりが見られ、1%未満と僅かな上昇率ではありますが上昇地点もみられるようになりました。また、商業地については、北陸新幹線延伸や平成28年3月完成予定のJR福井駅西口再開発ビルへの期待感があるJR福井駅前の商業地域や、大和田地区に代表される新規店舗の集積が進む福井市郊外の商業地域で下げ止まりの傾向が出てきています。一方で、人口減少、高齢化により需要が減退し空き家、空き店舗が目立つ地域も増えてきており、このような地域では今後更なる地価下落も予想されるようです。



9.おわりに

このほか、紙面の関係で紹介しきれなかった福井県の魅力はまだあります。是非、皆さん秋から冬にかけての食を楽しみに福井にお越し下さい。「日本酒と、魚を食べに福井に行こう!!」

(写真出典) 福井県観光写真素材集HP